



ふくいの子どもたちと先生のための GGKニュースNEXT



多様な子どもたちへの対応

学校全体で支える仕組みづくり

学級経営において、多様な子どもたちへの対応は課題の一つとなっています。
今回は、複数の取組を組み合わせることで学校全体が落ち着きを取り戻した事例を紹介します。



弱音が吐ける場の設定

教員同士支え合うためには、安心して悩みや困りごとを話せる職場づくりが大切です。ある学校では、週2回、放課後に気軽に話し合える場を設け、教職員同士で悩みを共有することで協力しやすい環境づくりを進めています。



- 語り合いの場
- 困り感の共有
- 心理的安全性

個別対応

通常の授業など、集団での学習が難しい子どもに対し、校長を含めた全教職員が協力して通級や相談室での個別支援に取り組んだ結果、子どもたちが落ち着き、学級の安定につながった学校があります。



- 全教員による個別支援
- チームで対応
- 学級の安定化

医療・福祉との連携

保護者の理解を得ながら医療機関や外部機関と連携することで、子どもに合った支援につなぐことができます。学校と家庭が協力し、適切な支援を検討することが大切です。



- 専門機関と連携
- 保護者の理解促進
- 子どもに合った支援

子ども主体の授業

子どもが自分のペースや方法で学習を進める自由進度学習等は、学習意欲の向上やストレスの軽減につながります。教え込み型の授業から子ども主体の学びへの転換が少しずつ進められています。



- 自分のペースで学ぶ
- ストレスの軽減
- 学習意欲の向上

COLUMN

学校全体で支えることが重要

多様な子どもたちへの対応は、担任一人で抱え込むものではありません。教職員同士の支え合い、個別支援の充実、専門機関との連携、そして授業改善など、複数の取組を組み合わせることでよりよい支援につながります。子どもたちが安心して学べる環境づくりのために、学校全体で支える取り組みをさらに充実させていきたいものです。

